



日本音楽教育学会 ニュースレター

目 次

1	ご挨拶	
	会長就任のご挨拶	2
	編集委員会委員長	3
2	報告・お知らせ	
	常任理事会・理事会報告	4
	『音楽教育実践ジャーナル』特集原稿募集のご案内	7
3	全国大会・ゼミナールのご案内	
	第36回全国（沖縄）大会のご案内	8
	第8回音楽教育（妙高）ゼミナール	8
4	海外トピックス	
	ISME マレーシア大会 2006, APSMER, MDG 他	9
5	国内トピックス	
	全日本音楽教育研究大会（愛知大会 2005）	10
	マリー・シェーファー講演会, 他	11
6	会員の窓	
	ニュースレターへの投稿のお願い	12
	会員からの情報, ニュース	12
	Letter to the Editor	
7	その他	
	平成16年度修士論文題目一覧	13
	住所・所属変更及び新入会員住所	17
	編集後記	23

会長就任のご挨拶

日本音楽教育学会会長 坪能由紀子



2005年4月から会長を務めさせていただくことになりました。この3年間、どうかよろしくお願いいたします。

私が日本音楽教育学会会員になったのは第2回名古屋大会の時、それは音楽教育学の黎明期ともいえる時代でしたが、それから30数年、音楽教育学が発展していく中で、日本の音楽教育の屋台骨を支える柱の一つとなってきたのが当学会であったといっても過言ではないと思います。そんな学会の発展の中で多くの知己を得、諸先輩に導かれて学ぶことができたことは、私にとって得がたい経験でした。

当学会は学部生や院生からベテランの研究者、そして実践に関わる方々が音楽教育という同じ土俵で語り合い、互いに切磋琢磨しながら学び合い、研究を深めてきた場であったと思います。私はこれからもこの学会がそのようであり続けてほしいと願い、そのために微力をつくしていきたいと考えています。

当学会ではここ数年、『音楽教育実践ジャーナル』の創刊や夏期ワークショップの開催など、事業を拡大してきました。そんな事情もあって、学会に関わる仕事量が膨大にふくれあがっています。また、学会の機構が実状にそぐわないのではないかと思われる面も出てきています。それらを是正するために、本年4月から「学会運営検討委員会」「学会誌検討委員会」を設置しました。その検討結果については総会やこのニュースレターなどで会員みなさまにお知らせすることになるかと思えます。会員諸氏の

ご意見を反映しつつ、新たな方向を模索していきたいと考えています。

また、ますます盛んになりつつある音楽教育分野の国際交流に対応し、視野を拡大し、ひいては世界の音楽教育の発展に寄与することを目的に「国際交流委員会」を新たに設置することになりました。

こうした新たに設置された委員会の委員諸氏も大変なお仕事を引き受けてくださることになりますが、理事等の役員、学会誌の編集委員はもちろん、各地区例会・夏期ワークショップ・音楽文献目録委員会担当、またホームページやニュースレターの編集、今年9月に開催される妙高ゼミナールの実行委員会など、学会は実に多くの会員の方々の善意と奉仕の精神で成り立っています。大学を含め職場での仕事が増え忙しく、音楽教育がかつてないほど厳しい状況にある昨今、学会のこうした仕事を引き受けていただく方々には、心から感謝と敬意の念にたえません。

私は、若い世代や実践に関わる方々も含め、できるだけ多くの方に学会運営に積極的に参加していただけることを願っています。これからの学会を運営するためには、会員みなさまのご協力は欠かせません。ぜひお力を貸していただきたいと思えます。

学会運営は開かれた、民主的なものでありたいと思っています。そのためには会員諸氏のご協力とともに、会員との情報の共有も不可欠です。このニュースレターも、会員と学会を結ぶ大きなきずなです。多くの会員が自由に発言できる開かれた場であ

り、そして魅力ある情報が満載されるニュー
スレターをつくることを、これからも目指

して行きたいと思いを。

編集委員会からのご挨拶と報告

編集委員会委員長 木村次宏

5月15日に東京芸術大学音楽教育研究室において本年度第1回目の編集委員会を行いました。今年度は編集委員会のメンバー交代の年で、4月より4名の旧委員に6名の新委員が加わりスタートしています。新委員は、岩井正浩（神戸大学）、小川容子（鳥取大学）、北山敦康（静岡大学）、嶋田由美（和歌山大学）、志村洋子（埼玉大学）、松永洋介（岐阜大学）で、前回と同様、経験と年齢においてバランスの取れた構成になっているのではないかと思います。そしてこの新委員を含めた委員の互選によって、安田寛前委員長の後を、僭越ながら私がお引き受けすることとなりました。前委員長のように的確な判断のもとに仕事を進めていくことができるかどうか不安ですが、学会誌の充実・発展のために努める所存です。どうぞ皆様方の温かいご支援よろしくお願いいたします。なお副委員長には、委員の総意によって小川容子委員にお引き受けいただきました。

さてここ2年、編集委員会では従来の学会誌である『音楽教育学』と並行して『音楽教育実践ジャーナル』の編集作業も進めなければならず、多忙を極めております。

『音楽教育実践ジャーナル』に関しても、ようやくその方向性が見えてきたように思いますが、まだまだ解決すべき問題も山積しています。このような状況の中で、新編集委員会もスタートしたばかりですが、ただ今、メール会議等も含めて可能な限り委員

間の意志の疎通を図りながら、編集作業及び学会誌の在り方等の検討を進めています。学会誌とはやはり学会の活動をアピールする一つの大切な“顔”でもあります。この二つの学会誌の活性化を目指して、会員の皆様と共に、編集委員一同、努力していきたく思います。

最後になりましたが、3月まで仕事を共にしてきました、安達真由美（北海道大学）、今川恭子（立教女学院短期大学）、佐野靖（東京芸術大学）、坪能由紀子（日本女子大学）、南曜子（金城学院大学）、安田寛（奈良教育大学）の旧委員の方々には、「本当にご苦勞様でした」と労いの言葉をかけさせていただきたく存じます。

【お詫び】

2005年3月30日発行の『音楽教育実践ジャーナル（Vol.2 no.2）』の目次（3頁目）の中で、自由投稿として掲載させていただいた提案の執筆者名に誤りがありました。ご本人に多大なご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫びすると共に、以下のように訂正（下線部）させていただきます。今後このようなことのないよう十分に注意したいと思いを。

提案 今この時代だからこそ「クリエイティブな音楽活動」の実践を！—ユビキタス社会における「音楽の基礎・基本の力」としてのイメージングに着目して

新山王 政和

平成17年度第1回常任理事会・理事会報告

平成17年度第1回常任理事会・第1回理事会（合同開催）

日時：平成17年5月15日（日）14:00～17:15

場所：東京芸術大学5号館401号室

出席：井口・今川・岩井・岩崎・小川（昌）・小川（容）・奥・加藤・木村・熊木・小山
阪井・佐野・篠原・島崎・嶋田・田邊・坪能・寺田・降矢・南・宮野・村尾・安田
山本・若尾（五十音順）

欠席：なし

担当報告：伊野（ゼミナル）杉江（会計）

【報告事項】

1) 会務報告（小山事務局長）

平成16年11月15日以降の会務報告がなされた。

平成16年

- 12月16日 音楽教育学34-2号念校
- 25日 音楽教育学34-2号・ニュースレターNo.18発送

平成17年

- 2月20日 新旧合同常任理事会（東京芸術大学）
- 3月5日 第4回編集委員会（日本女子大学）
- 30日 音楽教育実践ジャーナルVo.2 No.2・ニュースレターNo.19発送
- 3月31日 音楽教育事典原稿返却希望締め切り
- 4月22日 第36回大会共同企画公募締め切り

今年度より、ホームページ作成を齊藤忠彦氏にお願いした。

2) 各種委員会報告

1. 編集委員会（岩井委員・木村委員）

査読結果の報告があった。

査読体制、投稿規程、発行回数を含む課題について、今後の検討が必要であるとの報告があり、活発な意見交換がなされた。これらのことに加え、編集事務体制、編集委員会委員構成についても、学会誌検討委員会での審議事項とする旨、

会長より発言があった。

2. 音楽文献目録委員会（今川委員）

修士論文の調査について協力要請があった。

3) 前常任理事会からの引き継ぎについて

順調である旨報告された。編集委員会によってマニュアルが作成された旨、披露された。

4) 各地区例会報告

北海道 3月26日、北海道教育大学釧路校で開催。

東北 ワークショップと研究発表を計画、年2回の開催としたい。

関東 2月5日、国立音楽大学で実施。

北陸 2月19日、上越教育大学で開催。

東海 3月19日に名古屋音楽大学で開催。今年度は7月23日に予定。

近畿 2月26日および、5月14日に開催した。

中国 3月5日、山口大学で開催。本年度より年間2回とし、7月30日にはエリザベト音楽大学を会場として、マリー・シェーファー氏の講演会と演奏会を開催予定。

四国 3月5日、高知大学で開催。本年度は鳴門教育大学で開催予定。

九州 3月5日に開催。本年度は熊本大学を予定している。

5) 四国地区例会費用残金の寄付について

これまで繰り越してきた費用に特定の用途がないため、平成17年度会計への寄付金とする旨

報告があり、了承された。24,718円であった。

6) 第36回大会(沖縄大会)について

1. 大会実行委員会企画によるフォーラム(エキシビジョン, シンポジウム)について説明があった。他にパネル展を企画中である旨, 付言された。

2. プロジェクト研究

・「新しい学習評価と音楽科の学力」(加藤理事) : 現在, 各都道府県教育委員会への調査を依頼中。

・「学力(低下)論争と音楽科—音楽科におけるくゆとりの教育>は子供たちに何をもたらしたか—」(村尾理事・嶋田理事) : ①歴史資料の収集・分析 ②教師から見た音楽科の学力観と子どもの変化についての調査研究③日本の子どもの音楽の「学力」に関する調査研究を計画中。

3. 共同企画(嶋崎理事) : 2件の応募があった。

7) 第37回大会について(坪能会長)

千葉大学に開催を要請し, 了承された旨報告があった。宮野理事より, 10月下旬の開催を検討中との報告があった。

8) 第8回音楽教育ゼミナール"2005"(妙高ゼミナール)について(伊野実行委員長)

資料「この秋は妙高へ」に沿って説明があった。

9) 学会運営検討委員会, 学会誌検討委員会について(坪能会長)

2つの会長諮問委員会について, 構成者の紹介があった。

学会運営検討委員会 ; 村尾, 北山, 杉江, 藤沢, 吉田孝。

学会誌検討委員会 ; 加藤, 佐野, 木村, 小川(容), 今川。

【協議事項】

1) 平成16年度会計決算報告及び監査報告(杉江会計担当・岩崎会計監事)

資料にそって会計報告, 監査報告が行われ, 承認された。

2) 平成18年度事業計画案及び予算について(小山事務局長・今川会計担当理事)

<平成18年度事業計画(案)>

平成18年5月中旬

平成17年度会計監査

平成18年度第1回編集委員会

平成18年度第1回常任理事会・理事会

6月22日 研究発表(口述)申し込み〆切
中旬 学会誌第36-1号発行・
ニュースレターNo.24

7月上旬

平成18年度第2回編集委員会

平成18年度第2回常任理事会

研究発表受理通知

8月下旬

音楽教育実践ジャーナルVol.4.No.1発行

ニュースレターNo.25

夏期ワークショップ

※ 第3回編集委員会

第3回常任理事会・第2回理事会

第37回大会 会場: 千葉大学

12月中旬

学会誌第36-2号発行

ニュースレターNo.26

平成19年2月初旬

平成18年度第4回編集委員会

平成18年度第4回常任理事会

3月末日

音楽教育実践ジャーナルVol.4 no.2発行

ニュースレターNo.27

平成18年度会計決算

(※ 月日は未定)

平成18年度予算(案)について, メール便使用による送料の減額, 人件費の10万円程の増額,

音楽文献目録委員会分担金増額等を反映した提案がなされ、承認された。また、分担金のうち(財)音楽文化創造分20,000円の停止が提案され、この分を予備費の増額として承認された。また、交通費節約等支出の抑制、増収を課題とすることが確認された。(予算案は第36回大会プログラムに掲載予定)

3) 国際交流委員会について(奥理事)

資料「情報の交流・発信の必要性について」に基づいて説明があり、協議した。委員会名称は提案の通り承認された。委員の選任は会長が行い、理事会承認を得ることで了承した。なお、委員会規程(案)については学会運営検討委員会の審議事項とした。若尾理事よりISMEとの関連について質問があり、村尾氏、奥氏から説明があった。関連して、南理事より全日音研大学部門行事のアピールがあった。

4) 全国大会開催についての学会本部と大会実行委員会の役割分担などについて

次回常任理事会において審議することとした。

5) 後援申請について(小山事務局長)

7月30日、エリザベト音楽大学にて開催のラリー・シェーファー講演会・演奏会について、後援名義使用を承認した。

6) コピー機導入について(小山事務局長)

事務局へのコピー機導入について必要が認められ、承認した。

7) 新入会員及び退会者の承認

新入会員：下記の3223番～3248番までの26名を承認。

申し出退会者：ご逝去1名を含む2名を承認

<正会員>

3223 池田 尚子 エリザベト音楽大学院生
3224 徳富 聖子 山口大学院生
3225 阪井 康雄 横浜国立大学附属鎌倉小学校

3226 手塚 綾 信州大学院生
3227 渡辺 亜希子 信州大学院生
3228 山田 健一 北海道教育大学附属札幌小学校
3229 山田 克己 拓殖大学北海道短期大学
3230 小田原 泰子 府中東小学校
3231 山崎 和子 京都教育大学
3232 鈴木 香代子 聖徳大学大学院院生
3233 吉田 悦子 我孫子市立我孫子中学校
3234 小峰 智子 昭和音楽大学
3235 宮田 圭子 福岡教育大学・香蘭女子短期大学
3236 谷 正人 (財)とらまる人形劇研究所
3237 屈 維 日本女子大学院生
3238 川口 さやか 広島大学院生
3239 石川 佳世 静岡県立富士養護学校
3240 中山 由里 九州女子大学
3241 稲山 春美 茨城大学院生
3242 小野 傑 八千代市立八千代台西小学校
3243 王 曉玲 広島大学院生
3244 小崎 光洋 聖徳大学
3245 大沼 寛子 東京芸術大学院生
3246 城元 智子 University of London 院生
3247 木村 貴紀 共栄学園短期大学
3248 大熊 信彦 国立教育政策研究所・文部科学省

<申し出退会者>

0047 吉森 章夫 徳島大学
0049 森川 京子 兵庫教育大学
0111 原田 宏司 広島大学
0395 中村 義朗 富山大学
0449 鶴田 信男 愛知教育大学
0462 吉本 隆行 信州大学名誉教授
0652 宮島 俊子 京都文教短期大学
0688 川口 裕男 横浜国立大学名誉教授
0778 河西 保郎
1048 杉山 常子 高田短期大学
1188 西原 稔 東京芸術大学

1208	谷本 直美	東京学芸大学, 附属竹 早小学校	<ご逝去>
1422	海老原 直秀	東京芸術大学, 附属高 等学校	1418 堀場 宗泰 常葉学園短期大学
1463	中村 順一	創価大学	<申し出退会団体会員>
1541	有木 香織	岡山大学	(財) ヤマハ音楽振興会
1832	木村 博文	豊島区立西巣鴨中学校	
1857	大畑 耕一	藤女子大学	自然退会者 49名
1949	三井 徹	金沢大学	5月12日現在 正会員数1525名
2142	中嶋 玲子	千葉大学院生	
2754	鈴木 由喜子	横浜市立岩崎中学校	次回常任理事会
2864	岡本 美恵	山口大学院生	平成17年7月10日(日)14:00より
2970	橋本 雅央	東京芸術大学院生	日本女子大学

『音楽教育実践ジャーナル』特集原稿募集のご案内

編集委員長 木村次宏

日ごとに暑くなってまいりましたが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。さて、編集委員会では、2006年3月発行予定の『音楽教育実践ジャーナル』通巻6号の特集に向け、下記の要領で原稿を募集いたします。投稿に際して、書式、字数などは（とくに指定がない限り）『音楽教育実践ジャーナル』投稿規定をご覧ください。なお、投稿の際には、原稿の表紙に「特集への応募原稿：『実践ジャーナル』通巻6号」と明記してください。採択された原稿については、来年1月末日までに編集委員会から投稿者に連絡いたします。

1. 特集タイトル：「学校生活を支える音楽の課外活動（仮題）」
2. 企画担当者： 北山敦康，嶋田由美，新山王政和
3. 原稿締め切り： 2005年12月15日（必着）
4. 特集の趣旨：

学校教育の一環である吹奏楽や合唱等の課外活動は、教科としての音楽教育とともに戦後の日本の音楽文化を支えてきたと言っても過言ではありません。とくにここ数年、これらの活動をたんに課外活動として捉えるだけでなく、学校内音楽活動の中心的な存在として、さらに地域の文化活動の中核として活用していこうとする実践も見られるようになってきました。しかし、これまで本学会では、そういった課外活動としての音楽教育に焦点を合わせた研究が少なかったように思います。今回の特集では、教科指導とは違った学びや育ちの場としてそれらの実践をとりあげ、小中学校や高等学校だけでなく、幅広く幼稚園・保育園から大学のサークル活動までを対象にして原稿を募集することにしました。

予定されております。またこの時期の沖縄観光は、夏場とは異なり「平和学習」を中心とする修学旅行生が多くなります。太平洋戦争の惨劇を記すひめゆり平和祈念資料館や沖縄戦終焉の地・摩文仁にある「平和の礎」や平和資料館を訪ねて見るのも、戦後60年という節目に全国大会が沖縄で行

なわれたというよい記念になるのかと存じます。

これから大会へ向けて全力で準備を進めて参ります。会員の皆様のお力添えをお願いするとともに、多くの会員の皆様のご参加を実行委員一同、心よりお待ちしております。

妙高ゼミナール 2005 へのご案内

9月9日-11日

詳しくは、綴じ込みの別紙をご覧ください。

海外トピックス

1) 第27回世界音楽教育会議 ISME マレーシア大会演奏, 研究発表, ワークショップ等募集中

次回の ISME 大会は 2006 年 7 月 17 日～21 日の 5 日間マレーシアのクアラルンプールで開催されます。アジアで開催されるのは、1992 の韓国ソウル大会以来 14 年ぶりです。この機会に、急成長の著しいマレーシアで、世界中から集まった音楽教育関係者と交流しませんか。大会実行委員会では現在、演奏、研究発表、ワークショップ等を募集しています。とりわけ人数を擁する演奏団体の場合、航空運賃や時間の点でこの機会は見のがせません。演奏団体については締め切りが 6 月 10 日となっていました。8 月 10 日に延期されています。積極的に応募してください。

詳細：<http://www.isme.org> をご覧ください。

問合先：ISME2006 実行委員

チャン・チェオン・ジャン (マレーシア・プトラ 大学シニア講師)

12 月まで国立音楽大学サバディカル・フェロー

E-mail: lexuan35@hotmail.com, Tel: (東京) 090-9816-1816

ISME 常任理事 奥 忍

E-mail: s-oku@mbox.kyoto-inet.or.jp, Tel. 086-251-7647

2) APSMER2005 シアトル大会

アジア太平洋音楽教育学シンポジウムは、2005 年 7 月 14～16 日までアメリカ、シアトルのワシントン大学で開催されます。今年は発足 10 年の記念大会となり、日本からも大勢参加、発表することになっています。Keynote は日本でもよく知られている P. キャンベル (ワシントン大学), ナルット・スタチット (チュラロンコン大学, タイ), C. ヤーブロー (ルイジアナ大学)。

<http://depts.washington.edu/apsmer05/APSMER2005.htm>

3) MayDay Group (MDG) Colloquium:

"Discourses and Practices of Hegemony, Power, and Exclusion in Music Education" 2005年7月17日～19日, カナダ, バンクーバー。

T. Regelski と T. Gaze が5月に会って意気投合して結成した MaDay Group が、今や全世界の音楽教育学者が参加する巨大なメーリングリストとなりました。それが、メーリングリストだけでなく、新しい形の国際的音楽教育組織となって、毎年、国際学会のような大会を開いています。今年、APSMER との実質的な協同で、APSMER 大会の後、シアトルからバスでバンクーバー、ブリティッシュ・コロンビア大学に駆けつけるような手はずができています。

4) ISME 欧州大会 2005, 全アフリカ大会 2005, 南米大会 2005

ISME 地域大会に今回初めてヨーロッパ大会が加わりました。場所はハンガリー。

1. ISME 欧州地域大会: HUNGARY, Budapest 27-31 August: DEADLINE: 10 June

<http://www.zeta-hmta.org/>

2. ISME 全アフリカ大会: MOZAMBIQUE, Maputo 3-11 July:

<http://www.pasmae.org/>

3. ISME 南米地域大会: CHILE, Santiago 25-30 September:

<<http://www.umce.cl>> <<http://www.educacionmusical.cl>>

5) Conference on Music Learning and Teaching

Call for Proposals: Deadline Extended to June 15, Center for Applied Research in Musical Understanding (CARMU), Oakland University
Rochester, Michigan, November 10-12, 2005.

国内トピックス

1) 全日本音楽教育研究会 (愛知総合大会)

平成 17 年度全日本音楽教育研究会 愛知総合大会

『音楽? 音楽! ひろがる音楽の教育内容とその方向性』

平成 17 年 10 月 13 日 (木)・14 日 (金)

大会 1 日目 [大学・短期大学部会] 主題『大学で教える音楽の行方』

<http://www.oklab.ed.jp/neisi/16/ongaku/ongaku-kenkyu/zennichion.htm>

◎会場: 岡崎市「太陽の城」(名鉄: 東岡崎駅北西約 500m, 岡崎市明大寺本町)

○個人研究発表

○授業改善のための FD 分科会 (8:30～受付, 9:00～11:00)

・FD 分科会 A: 「音楽療法士養成・音楽・医療福祉」

話題提供: 伊藤孝子 (名古屋芸術大) 松田真谷子 (藤田保健衛生大) 竹内貞一 (平成音楽大)

・FD 分科会 B: 「専門教育・音楽・テクニク」

話題提供: 江村哲二 (金城学院大) 北山敦康 (静岡大) 野々村明子 (名古屋音大)

○授業改善のための FD 分科会 (13:00～15:00)

・FD 分科会 C: 「教員養成・音楽・教科教育指導法」

話題提供: 小林田鶴子 (名古屋女子大) 斉藤忠彦 (信州大) 松永洋介 (岐阜大)

・FD 分科会 D: 「保育者養成・音楽・表現」

話題提供: 今川恭子 (立教女学院短大) 近藤久美 (一宮女子短大) 山本美貴子 (和泉短大)

◎FD・パネルディスカッション (15:15~16:45)

・パネルディスカッションA:

「Curriculum Innovation in the New Stream of Faculty Development」

司会: 滝澤達子 (愛知教育大)

パネリスト: Gary MacPherson (U.S.A), John Roh (Korea),
Chan Cheong Jan (Malaysia), 奥 忍 (岡山大)

大会2日目: 全体会・シンポジウム・記念演奏

○シンポジウム『日本の音楽教育の現状とその行方』 (9:55~10:55)

——今、音楽科に何がおこり、その教育はどこに向かおうとしているのか——

司会: 村尾忠廣 (愛知大会実行委員長)

シンポジスト: 高須 一 (文部科学省教科調査官)

市川俊行 (東京都港区港南中学校・全日本音楽研究会中学校部会長)

坪能由紀子 (日本女子大学)

○記念演奏 (11:10~12:40)

- ・富田勲氏によるシンセサイザーの音楽
- ・松田昌氏による鍵盤ハーモニカ演奏
- ・稲沢市立平和中学校の生徒による「名古屋版エイサー」
中学生による本格的なエイサーの演奏をご披露します。
- ・額田町立千万町小学校 (へき地校) の児童による「10名の合奏」
- ・参会者全員による合唱

2) マリー・シェーファー講演会 (エリザベト音楽大学)

日時: 2005年7月30日(土) 13:30-18:00

会場: エリザベト音楽大学

内容: マリー・シェーファー講演会と Threnody 平和教育プロジェクト演奏会

趣旨: マリー・シェーファー氏が作曲した原爆の犠牲者への挽歌 Threnody を、カナダの中
高生が被爆地ヒロシマで演奏するという平和教育プロジェクト。カナダ国内でもこの曲の演
奏を重ねてきた R. C. ゴールディング氏率いる子どもたち (合唱, オーケストラ, 民俗芸能
団体) 総勢 125 名に、作曲者マリー・シェーファー氏自身も同行して、演奏会を行う。演奏
会に先立ってシェーファー氏の講演会も開催される。カナダ国内における多大な助成金によ
って実現した今回の演奏会はカナダの子どもたちにとっての平和学習であると同時に、シェ
ーファー氏の音楽に込められた平和へのメッセージを共有することによって、日本の子ども
たち、音楽教育関係者との交流を通じた平和への貢献をその目的としている。

日程: 13:30-15:00 マリー・シェーファー講演会 ザビエルホール (210席)

16:00-18:00 Threnody 平和教育プロジェクト演奏会 セシリアホール (802席)

18:30-20:30 懇親会 (JALCITY 広島 会費 5000円)

共催: 日本音楽教育学会中国地区 (中国地区平成17年度第1回例会として大学と共催。
学会HPの中国地区例会のサイトに詳細は掲載。)

後援: カナダ大使館, 広島県, 広島市, 広島県教育委員会, 広島市教育委員会
日本音楽教育学会, 日本音楽表現学会, NHK広島放送局, 中国新聞社

連絡先：Eメールまたはファックスにて、講演会、演奏会、懇親会への参加の有無と、所属、連絡先を下記までお知らせください。先着順で受け付け、当日整理券をお渡しします。

(入場無料、ただし、整理券が必要)

〒730-0016 広島市中区鞆町4-15 エリザベト音楽大学 権藤敦子

E-mail:gondo@eum.ac.jp Fax:082-221-0947 http://www.eum.ac.jp

3) フォーラム「教師教育改革と教育学研究」

日本教育学会特別課題研究委員会「教師教育の再編動向と教育学の課題」

日時：2005年7月9日(土) 10:00～17:00

場所：日本大学文理学部図書館3階「オーバルホール」

* 日本音楽教育学会から村尾忠廣が講演予定

会員の窓

1) ニュースレターへの自由投稿のお願い

ニュースレターをもっと会員との双方向のものにしたい、と思っております。このコーナーでは、例えば「こんな本を出版いたしました」、「私の大学でこんな人事を公募しています」というような掲示板風の投稿でも受け付けたいと思います。web上での掲示板は、チェック機能が難しく、今も実現できておりませんが、ニュースレターなら可能です。エッセイ、学会への要望といった投稿でも半ページを目安に受け付けたいと思います。ニュースレターの編集者は毎回変わりますので、投稿は、学会事務局、もしくは、編集実務の担当者のE-Mailアドレス(tmurao@auecc.aichi-edu.ac.jp)へ送ってくださるようお願いいたします。

2) 会員からの情報・ニュース

「韓国の伝承わらべうた・伝統楽器の研究プロジェクト」

韓国音楽学会会長、韓国初等音楽教育学会会長のソウル教育大学 Cho, Hioihm 博士が日本学術振興会の招聘研究者として、東京学芸大学筒石研究室に本年度来日しております。韓国のわらべうたや伝統楽器タンソや尺八などについての講演、また伝統楽器を用いた教育の協同研究をおこなうことになっています。11月下旬には韓国大使館(韓国文化院)や東京学芸大学、韓国小学校等で「韓国伝承遊び歌公演」を予定。詳細は、後日学会のホームページにリンクしてお知らせいたします。

3) Letter to the Editor

投稿をお待ちしております。

16年度修士論文題目

北海道教育大学旭川校

- 齊藤 智恵 声楽の認知度と声楽教育の可能性
川本 友紀 音楽活動におけるファスティネーション
笠井 菜絵 ジョージ・ガーシュウィン作曲《へ調の協奏曲》の「調性」に関する研究

北海道教育大学岩見沢校

- 板倉 雄司 学校吹奏楽活動における外部指導者の役割－札幌地区における現況調査と分析－

弘前大学

- 外谷 和 サウンドスケープの学校導入への可能性
Bringing the Concept of Soundscape into School Music Curriculum in Japan

岩手大学

- 村上 仁崇 中学校における創造性を高める音楽教育－音素材に着目した音楽づくりの教材の追求－

宮城教育大学

- 小関 麻子 管弦楽曲の作曲

宇都宮大学

- 臼井 千陽 ブラームスの作品におけるヘミオラとその役割についての一考察
－《ピアノ三重奏曲第1番 op.8》を通して－

- 亀井真由美 日本語に適合した声楽発声
佐藤亜由美 声楽発声におけるアンザッツの考察
吉田 幸恵 オラトリオ《メサイア》(G.F.Handel)の分析

群馬大学

- 萩原 美幸 養護学校における肢体不自由児の音楽教育に関する一考察
－音楽学習に療法的視点を加味して－

- 尾崎 晴子 音楽教育における自己学習能力育成のための一考察

聖徳大学

- 市村綾希子 音楽教育における喉歌の教材化についての研究
－モンゴルの歌唱法ホーミーを中心として－

- 岩野 良美 音楽の授業における教授行為に関する研究
－音楽療法的視点による支援のあり方を中心にして－

- 神宮寺紋子 障害児の音楽療法－問題行動と音楽の関係－

- 杉山 陽子 パーソナリティから見たうつ病の音楽療法的考察

- 高野 安子 音楽療法ビジネスの可能性

- 米澤あをい 幻聴が長期にわたっている統合失調症の個人音楽療法の試み

千葉大学

- 板村 正恵 高校生と音楽とのかかわりに関する一考察
－高校生の発達段階に合わせた芸術科音楽のあり方－

- 椎名めぐみ 音楽を通して自己を豊かに表現するための学習指導のあり方
－低学年におけるおんがくをつくって表現する活動の充実－

- 鈴木 恒太 生涯にわたって音楽を楽しむために必要な基礎的な能力の育成

- 鶴岡 陽子 中学校音楽科における創造的な音楽づくりの可能性についての一考察
－現代音楽の技法に着目し、表現と鑑賞の関連を図った授業の実践的研究を通して－

- 吉川 瑞恵 学校教育におけるミュージカル作品の取り扱いに関する一考察

- 福田恵理子 医療福祉現場においての音楽活動の可能性

洗足学園音楽大学

- 小口 美里 学校音楽教育における三味線学習の意義と展望－学習者の意識調査を通して－

- 佐藤 静香 生徒が主体的に追求する吹奏楽指導の在り方

- 国立音楽大学
山本 学 平岡照章について ―その作品と音楽教育活動を中心に―
六反田彩子 音楽の生活化について
―学校音楽における戦後から 1970 年代に至る意義及び実態の変遷―
- 東京音楽大学
斎藤 理恵 求められる音楽教師像
岩崎 千恵 情操を深化させる音楽教育の考察
―子どもの音楽活動の視点に立って―
- 東京学芸大学
松岡 仁 中等教育における異文化理解教育とドイツ・オーストリアの音楽
―日唄音楽教科書の比較による学習方法の再検討―
小山 涼子 小学校音楽科における日本民謡の学習指導
―専門家による指導法を踏まえて―
勝治 友美 日本における児童発声に関する研究
―歴史的変遷と二人の教育実践者を中心に―
柴崎かがり 音楽教育におけるコンピュータを活用した創作過程の研究
大湊 勝弘 竹を音素材とした東南アジアの音楽の教材化と指導法の研究
―素材を生かした楽器作り・音楽づくりの実践を通して―
石井ゆきこ 音楽づくりと聴取の関連を図る学習過程
―小学校音楽科における「つくって表現」する活動を通して―
郭 清清 内モンゴル自治区の学校に「世界の諸民族の音楽」を導入する意義と方法
程 煜 中国師範大学における音楽科教員養成についての考察
―初級者からのピアノ教育に焦点をあてて―
王 曉玲 中国の基礎音楽教育課程改革における教科総合化の研究
―瀋陽市小学校低学年の事例を通して―
小楠 智子 アメリカ合衆国メリーランド州における音楽教育標準に関する研究
―チャールズ郡の初等音楽科教育を中心として―
伊藤 知子 表現力を高める合唱指導
―エンカウンターの手法を用いて―
天野 美穂 歌・身体動作を伴う遊びを通しての音楽教育の研究
―「Education Through Music」の活動を中心に―
- 東京芸術大学
藤波ゆかり 明治期から昭和前期に至る箏曲教習の歴史的展開
山田 明子 ルードルフ・フォン・ラバンの生涯と言説 ―今日の音楽教育への示唆を求めて―
原田 洋子 芸術科音楽における学習の総合化の可能性 ―検定教科書の分析を中心に―
- 武蔵野音楽大学
榎本 愛子 音楽表現に伴う「あがり」の要因 ―小学校高学年の分析を通して―
菊川 誓子 音楽学習経験の結果から生じた音高感 ―本大学ピアノ専攻者を対象として―
斎藤 久恵 公民館における自主グループの音楽活動について―集団学習がもたらす効果に着目して―
齊藤 里香 音楽教育における伝承音楽の導入に関する一考察
―秋田県民謡と授業事例の分析を中心として―
塩沢 望都 音楽科教育における視覚的認知に着目した授業設計
―映像認知及び映像表現技法による授業分析から―
茂山 美江 幼児の音楽メディア教材についての一考察
―幼児音楽教育におけるマス・メディアの影響―
濱口 恵理 音楽が果たす癒し効果についての一考察 ―学校教育における音楽療育を中心に―

- 吉田めぐ美 オルフ・アプローチにおけるエレメンターレ・ムジークの理論と指導実践の検討
－質的・量的方法による授業研究を通して－
- 日本大学
飯生 優子 大正期の童謡の音楽教科書の取り扱いに関する研究
－戦後の小学校教材を中心に－
- 鈴木 涼子 各教会旋法の情緒的特質について
- 新潟大学
佐藤 瑠美 シェンカー理論の学習が楽曲の理解や演奏表現に及ぼす効果
奈良 秀樹 中学校音楽科における弦楽器導入の意義と実践法の提案
- 上越教育大学
星 奈津美 ポピュラー音楽家による音楽学習方法と学校教育への応用の可能性
－8人のポピュラー音楽家へのインタビューを通して－
- 信州大学
手塚 綾 ノードフ・ロビンズ音楽療法の今日的意義と日本における展開
渡辺亜希子 宮城道雄の「童曲」－作品分析とその教育的意義について－
- 金沢大学
荒木 泰彦 「金沢市小学校伝承音楽教材集」の作成
- 岐阜大学
後藤 恵美 中学校合唱部における発声指導について
－統一された音色と響きを目指した個々の声作り－
- 周 山龍 中国と日本の小学校音楽カリキュラムにおける鑑賞学習の比較
張 望 声楽における呼吸・発声について
永田 尚子 音楽表現活動における音楽的思考の発展に関する一考察
－「楽譜への書き込み」と「指揮的表現」に着目して－
- 中村 美雪 児童の音楽的発達にもとづく音楽科カリキュラム構築の試み
－「つくって表現する」学習を中心に－
- 静岡大学
青木 俊彦 男子生徒への歌唱指導法の一考察－自分の指導経験の考察から－
池田 敦子 ウジェーヌ・ボザのサクソフォンのための作品における特徴について
大川 真澄 中学校音楽科における三味線の教材性について
－その芸術性の考察と授業実践の試み－
- 佐野亜有美 ピアノの音色の知覚に関する一考察
－アフォーダンス理論を用いて－
- 藤林 あみ イタリア初期バロック時代における「声区」に関する研究
－G.カッチーニのレ・ヌオーヴェ・ムジケを中心に－
- 石川 佳世 ピアノ学習者の内的聴覚に関する一考察－読譜を中心に－
- 京都教育大学
富 千絵理 日本と中国における小学校音楽科学習指導要領の比較研究
－日本国および中華人民共和国で公布されたものを中心として－
- 空谷 みき 小泉文夫の音楽教育観－わらべうた教育の主張を中心に－
- 京都女子大学
伊丹 里奈 カール・オルフ作品における Elementare Musik 概念について
－オペラ《賢い女》を中心に－
- 滋賀大学
高島 依子 ベル・カント唱法に基づく発声法の展開
佐山 舞香 G. F a u r e の作品における教会旋法について
竹本 千智 R. ヴァーグナーの闇と光

- －ヴェーゼンドンク歌曲集に内包されている女性観について－
 中村 好江 ロシア音楽史におけるスクリャービンの特異性について
 神戸大学
- 河瀬 里子 ピアノ作品集としてのクルターク《遊び》－「伝統」との関わりを中心に
 三宅 博子 コミュニティ音楽療法に関する研究
 兵庫教育大学
- 市原 智子 生涯教育につながる中学校音楽教育の教育効果について
 川崎 康代 小学校音楽科における教授行為に関する研究
 －教師の「指導言」を中心として－
- 北川 智子 音楽教育における「声」の研究 －いわゆる「いい声」とは－
 熊谷美智代 幼児期における頭声発声指導法の研究
 －発声器官のよりよい発達と広い音域を獲得する為に－
- 塩出 律 児童の合唱活動における個と集団の関係について
 －指導者のリーダーシップと児童の満足調査をもとに－
- 野口由美子 中・高音楽教育の器楽指導における管・打楽器の導入について
 廣本 恭子 音楽鑑賞が児童におよぼすリラクゼーション効果に関する研究
 －学校ストレスの軽減を目的とした音楽療法の活用－
- 大和美香子 中学校音楽科における表現と鑑賞の関連に関する研究 －器楽指導を中心として－
 和歌山大学
- 班 文林 モンゴル草原組曲（木管五重奏）について
 鳥取大学
- 羽根田真弓 保育者養成機関および幼稚園・保育園におけるカリキュラム改革の影響と
 対応に関する動向調査 －日本と韓国の比較をもとにして－
- 島根大学
- 内田智保子 小学校における療法的音楽活動の意義
 －自閉症S児への音楽的なかわりを通して－
- 河角 祥子 トロンボーン演奏指導法の試み
 河元 明子 小学校における弦楽合奏の教育効果と運営上の諸課題
 －島根県の中学・高校の弦楽クラブの実態をもとに－
- 滝浪 えま 音楽紙芝居を用いた小学校音楽科の授業実践に関する研究
 多屋 円 C.Franck《ヴァイオリンとピアノのためのソナタ・イ長調》の研究
 －第1楽章の演奏解釈を中心として－
- 岡山大学
- 川西 孝依 中学校音楽教育におけるポピュラー音楽学習の研究
 －社会学的視点からのアプローチ－
- 李 冉 中国の内モンゴル・パイェノアール地域における音楽教育
 －音楽の学習・教授に視点をあてて－
- 田中由美子 教育と臨床における唱歌「ふるさと」 －音楽が人間の心身に及ぼす作用－
 広島大学
- 岡崎 愛純 F. ショパンのマズルカに関する研究
 －その民族性とポーランド民謡との関連性を中心に－
- 河野 幸世 音楽科教育における日本音楽の指導に関する研究
 近藤 真代 高齢者への声楽発声指導に関する一考察
 竹崎さやか 学校教育における発声指導に関する研究
 －学習指導要領の記述に着目して－
- 立石 裕子 中学校音楽科における歌唱・合唱教材選択に関する研究
 寺園 智美 音楽科教育における評価の在り方に関する研究

- 中村知佳子 ー「教育目標の新分類学」の検討を中心にー
 矢代秋雄作品における「完璧さ」の諸相
 ー《ピアノソナタ》の分析結果からー
 榎原 仁美 アメリカ合衆国における音楽科教員免許制度に関する研究
 ー教員免許、及び教員資格制度の改革をとおしてー
 山口大学
 徳富 聖子 初心者のためのピアノ教則本の研究
 鳴門教育大学
 沖津 陽子 小学校音楽授業における歌唱共通教材の意義とその学習指導の構想に関する研究
 ー子どもたちの主体的な学びと教材との関わりを視点としてー
 川田 全紀 中学校音楽科における鑑賞活動についての指導内容に関する研究
 ーL.V. ベートーヴェン後期ピアノソナタ第31番作品110を中心としてー
 今 美樹 盲学校における創作ダンス指導実践研究
 ー音楽リズムと運動リズムの相乗効果による表現力の向上を目指してー
 富田 美穂 中学校音楽科における歌唱指導の研究
 ー「自然で無理のない声」をめざした発声指導のあり方ー
 富本 啓子 小学校音楽科における鑑賞のカリキュラム開発とその実践的研究
 古川 渚 音楽授業における子どもたちの学習の活性化を促す自己評価のあり方に関する研究
 ーポートフォリオ評価法の特性を生かしたワークシートの開発と活用を中心にー
 福岡教育大学
 今川 恵子 小学校音楽科における音楽的な感受を深めるための学習指導のあり方
 ー「経験」の再構成を手法とする鑑賞指導の試みー
 長崎大学
 仰木菜津美 幼稚園の音楽活動における身体表現の有効性についての研究
 中村 愛生 音楽の授業における自己評価カード活用の効果
 山口 弥生 小学校における金管バンドの運営と指導法について
 琉球大学
 古謝摩耶子 沖縄地域芸能におけるサウンドスケープの一像 ー久保田地域を事例としてー
 前津 元子 歌唱の授業における発問構成の研究 ー〈月桃〉の授業を例にー